

令和2年度第1回伝国の杜運営協議会議事録

1 開催日時 令和2年7月27日(月) 13時30分～15時

2 開催場所 伝国の杜2階 第1、第2小会議室

3 出席者

(委員) 堀江 昭浩(置賜地区高等学校教頭会会長) 後藤 満男(中学校教頭会会長)
鈴木 淳一(小学校教頭会会長) 小川 正昭(一般社団法人米沢観光コンベンション協会専務理事) 布施 賢治(米沢女子短期大学教授) 那須野桂子(伝国の杜ファンクラブ) 前山みゆ子(伝国の杜サポーター、おしよしなガイド) 山村 洋子(原始布・古代織参考館副館長)、山根 秀樹(米沢古典塾主宰) 長谷川茂則(米沢フィルハーモニー管弦楽団) 計 10名

(事務局) 公益財団法人米沢上杉文化振興財団 種村信次(理事長)、島津眞一(副理事長兼博物館長)、菅野智幸(常務理事兼事務局長)、花田美穂(学芸担当主査)、阿部哲人(主査)、安部理絵(主任)、寒河江大輔(総務担当主査) 小松史織(主事)、鈴木里津(主事) 計9名

4 開会(鈴木)

5 あいさつ(理事長)

皆様に日頃からご尽力頂き、感謝する。今後ともよろしくお願ひしたい。さて、新型コロナウイルス感染対策の影響で、展覧会や催事等思うように開催できていない状況である。5月23日より開催した「関東管領上杉謙信」の展覧会については、前期後期開催する予定であったが、後期のみとし、2,600名程の方に見学頂いた。この数字は目標入館者数に対して非常に少ない数字であるが、貴重な見ごたえのある展示を行った。今年度の展示計画については、現在はコレクション展を継続して実施している。近世・近代・現在と計3回に分けて行う予定であり、6～7月上旬に関しては、入館者数が二桁であったが、7月中旬からGO TOキャンペーンの影響もあり3桁台の入館者が入る日もあり、多くの方々に見て頂けている状況に変わってきている。ホール事業に関しては、ほとんどの催事が行えない状況であるが、直近の催事であると8月10日に「山響ユアタウンコンサート」を行う予定である。この催事も本来であればホール定員500名程集客が見込めるものであるが、感染対策の影響で半分の250名という人数しか集客できない状況である。

今回、皆様には2つの議題に対してご意見を頂戴出来ればと思う。まず、「鷹山シアター」に関してであるが、現在感染対策の影響と空調設備の影響で閉鎖している状況である。そちらに対して、令和3年度に内容を変更する予定があるが、どのような内容がふさわしいのか皆さんからご意見を頂戴したいと思う。もう一つは上杉文化エリアに人を呼び込むにはどうしたらいいかという議題である。その他お気づきの点があれば、このような状況下であるがご意見を頂戴したい。

- 6 委嘱状交付机上配付にて委員へ委嘱状交付。
委嘱期間は令和2年7月27日から令和3年7月26日まで。
- 7 新任委員自己紹介
- 8 新採職員紹介（事務局長）
- 9 議 事 運営協議会要綱第6条に基づき、小川正昭会長が議長として議事を進行。

【報告】

- ①令和元年度 公益財団法人米沢上杉文化振興財団運営自己評価および新型コロナウイルス対策の実施内容について事務局長が概略を説明した。

（小川委員）

評価シート1pの成果の欄に「福王寺展を機に周辺資料・情報が充実した」とあるが、具体的にどんな内容が充実したのかという点と郷土資料の「昨年度に引き続き、古書の購入を進め、郷土資料刊本の充足に努めている」と記載があるが、古書購入予算があると思うが、どの位購入されているか教えて頂きたい。

（事務局）

まず、福王寺展についてだが、展示を行うにあたり新たな作品をご寄贈頂いたりアトリエの調査を行いさらに作品をご寄贈頂くということがあり、生誕100年の展覧会を行うことで更に周辺資料の収集に繋がったという成果があった。また、郷土資料に関してはナセBAでの取扱いになるが、毎年郷土資料に関する古書の購入を進めている。市からの予算を使い、担当で古書を選定し購入している。

- ②令和2年度 米沢市上杉博物館・置賜文化ホールの子な事業について事務局長が概略を説明した。

（小川委員）

ホール事業に対して新型コロナウイルスの影響で中止している状況であるが、中止した影響で大変な負担になっているのではないか。

（事務局）

開催する事業に関しても客席を半分にする等工夫が必要であり、もちろん収入も落ちる計算になる。感染拡大もいつまで続くか分からないため、先行きが不安であるが、進めていくしかないと考えている。

【御意見、御提言】

- ①文化課において令和3年度に常設展示室の鷹山シアターの上映作品を1本作成する予定だが、内容についてどの様なものが考えられますか。

（前山委員）

米沢市を案内している中で、シアターと結びつけられるような内容が良いと思う。例えば、笹野のおたかぼっぼ等鷹山の功績で現代に残っていることなどを紹介し、鷹山の時代と現在の様子を組み合わせてもらいたいような内容であると、実際にその場所に行ってみるかという気持ちになると思う。

(長谷川委員)

学生への歴史教育目的にするのか、または観光客目的にするのかコンセプトと狙いを決めて作成するべきだと思う。県外・県内でも、上杉鷹山の功績など理解している方はなかなか少ないと思うので、現代においてどのように評価されているか専門家のインタビュー映像を流し、紹介するような内容であると良いと思う。

(那須野委員)

先ほど、長谷川委員がおっしゃったように、鷹山公の現代に通じるような功績を紹介する内容が良いと思う。

(山村委員)

自分が小中学生の時に、小中学生新聞というものがあり、郷土の偉人の功績などを取り上げる内容から、郷土愛が芽生え、身近に感じる事が出来た。鷹山公の人間像が分かるような内容であれば、見る人の心に通じるようなシアターになるのではないか。

(布施委員)

鷹山公の様々な功績や評価を軸にやるのが良いと思うが、専門家や小説家のインタビュー映像等、客観的な視点を積極的に取り入れる方が見に来た人が分かりやすいと思う。また、先ほど意見があったが、現在残っている場所で鷹山公と関わりのある場所や伝統芸能や文化等を紹介すると観光という面でも役割を果たすことができると思う。

(鈴木委員)

鷹山シアターに関しては、何かしら興味がある方が足を運んでいるように思う。前山委員がおっしゃったように、今に生きる鷹山の功績から観光へ繋げていくことが出来るのではと思う。

(山根委員)

今までのシアターはどちらかというと物語タッチの内容であるが、ドキュメンタリーにし過去と現代と映像を交互させて作成すると新鮮な内容になると思う。また、鷹山が生きた時代は世界的にみると似たような偉人が多くいるので、世界史的な視野も含めながら製作すると良いのではないか。

(堀江委員)

予算が限られているということであるが、現在のシアターの内容は非常に質が高いものであると感じているため、今の人気のある俳優の方等に演じてもらおうと人気が出るのではと思う。また、今に生きる鷹山の具体的な功績や考え方について紹介し、「あなたはどう思いますか？」という問いかけ型の内容であると小中学生が考えるきっかけになるのではと思う。

(後藤委員)

地元向けなのか、観光向けなのかコンセプトを定めた方が良い。また、予算に限りがあるが、3つほど内容が違う物を製作すると二回目来た方も違う内容で上映を楽しんで頂けると思う。テイストも、アニメにしたりインタビュー形式にしたりと工夫すると良いと思う。上杉鷹山の功績は取り上げると面白いものが多い。シアターを見たことがきっかけに、鷹山の時代だけではなく広く米沢の歴史について知ってもらえるようになってもらいたい。

(議長)

コンセプトをどこに置くかで、内容が変わってくる。先ほど意見が出ていたが、内容については3つほどに分けて、現代にのこる鷹山の功績から米沢へ上杉家が来た経緯や米沢の偉人紹介なども良いと思う。シアターを見て観光に出かけてもらえるようなきっかけになれば良い。

(那須野委員)

今上映している映像は取りやめするのか。

(事務局)

現在上映している映像はそのまま利用していく予定である。

(那須野委員)

今上映しているものも含め、内容が違うものを作り、視点やテイストを変えて製作すると良いと思う。

(議長)

このシアター映像製作の決定権は誰にあるのか。また、文化課と連携して作るのか。

(事務局)

所管は文化課であるが、今回の新型コロナウイルスの影響で来年に延期してしまったため、詳細まではまだ決まっていない。こちらで出た意見に関しては、参考にさせて頂きたい。

②上杉文化エリアに人を呼び込むには

(上杉文化エリア：上杉神社を中心としたエリアで上杉神社、伝国の杜、上杉記念館、上杉城史苑、児童会館などの施設を含む。)

(理事長)

この件について、文化エリアだけではなく上杉神社にある稽照殿について一つ説明させて頂きたい。観光客は上杉神社に参拝してすぐ帰る方が多く稽照殿を見学する方は少ないようである。稽照殿は優れた現物の展示をしているが、内容を変えずに展示を行ってきたせいか展示品の価値が認識されていない現実がある。今年度より、当財団の上杉文化研究室室長角屋が上杉神社でも勤務し、稽照殿の展示を多くの人に見て頂けるようにするために尽力してもらった。稽照殿の見学をきっかけに文化エリアの滞在時間が長くなるようになって欲しい。

(議長)

この件に関して、上杉文化エリア懇話会などで意見交換を行うなどしている。道の駅米沢に関しては、年間200万人が来る施設に成長し東北でも人がくるエリアになっている。この影響で、上杉文化エリアは2割程度収益が減っており、観光客の車の台数も減っている。このような状況から、道の駅にも「まちナビカード」という割引になるカードを設置するなど上杉文化エリアに人を呼び込むようにしているが、なかなか思うような効果が出ない状況である。このような背景を踏まえ、是非視点を変えて皆さんから意見を頂戴したい。

(堀江委員)

上杉文化エリアにきたついでに道の駅に行くことはあっても、道の駅に行くついでにこちらのエリアに行くということはなかなか難しいのではないと思う。費用がかかるかと思うが、道の駅に来た観光客を対象にマーケット調査を行い、どのような意識で道の駅に来て、なぜ上杉文化エリアに行かないか調査する等行うべきだと思う。また、道の駅に立ちチラシ配りや声かけを行うのも一つ手である。また上杉文化エリアとは直接関係ない催事（祭りやイベント等）で来てもらった観光客を呼び込めるようになると良いと思う。

(後藤委員)

やはり、このエリアだけでなく米沢全体で考えていかなければなかなか難しいと思われる。上杉文化エリアに関して、滞在時間 20 分程度で帰る観光客が多く、それは宿泊施設が少なく、あくまでも米沢が通過地点になっているからである。今は道の駅には多くの観光客が来ているが、しばらくすると同じようになってしまうのではないかと考えている。道の駅と違い、上杉文化エリアは車から降りて歩いて見学するためそれを柱として考えていくべきだと思う。南陽市の例を挙げると、新しくできた南陽市民文化会館には有名な歌手等が多く来るようになった。伝国の杜ホールもあのホールで公演をすれば箔が付くという風潮になれば集客が見込めると思う。また、以前も提言したが、こちらのエリアには武者道があり実際に歩けるようになっているため、1 時間程度でコースを作ることが可能である。このように実際に歩いて米沢の素晴らしい文化や歴史に触れることもできる。昔は、上杉文化エリアに屋外で楽しめる設備（ポート等）があった。そのように歩いて楽しめるような環境があれば良いと思う。

(山根委員)

なかなか実現が難しいとは思いますが、東京にある「はとバス」のような観光バスがあれば良いと思う。観光客からすると、どこに行けばいいか分からないという人もいるため、半日くらいのコースを作り楽しんでもらうなどできればと考えている。

(鈴木委員)

意見として出たように、道の駅に行けば食べる物やお土産については事足りてしまう。いかにこちらのエリアに人を流せるような工夫が必要であると思う。幅広い年代の方に対応できる見どころがあれば、道の駅に来た人に向けて PR して少しでも人をこちらに流せるようにできたらと思う。

(前山委員)

おもしろいガイドとして活動しているが、もっと知名度を上げて活用して貰えればと考えている。また、米沢市民の方でも上杉文化エリアの事を知らない人が多いと感じる。大人は出かける先は子供に左右されると思うので、このエリアに子どもが遊べるような場所を設け、市民に目を向けてもらえるようにして欲しい。また、以前も提言したが、米沢城は日本の 100 名城であるのにも関わらず、なかなか分かりにくい。100 名城巡りなどされている観光客がいるため、もっと 100 名城であることをアピールするように看板を建てるなど分かりやすくして頂きたいと思う。

(長谷川委員)

なかなか難しい問題であると感じている。やはり、上杉文化エリアが観光客の目的地にならない限り人を集めるのは難しいと思う。現実的に、県外の観光客からみて目的になるものが文化エリアにあるかといわれると難しいものがある。上杉神社の稽照殿には個人的に見ごたえのある展示品もあるため、例えば稽照殿の展示をこちらの博物館で連携して展示し、一体となって観光客の目的地になれるようなことをするなど工夫が必要だと思う。

(山村委員)

織物資料館を開いているが、来館される方に観光地を聞かれると博物館や上杉文化エリアを紹介している。個人的に案内することもあり、その中で色々な意見を伺うが米沢全体に点々として歴史的なスポットがあるが、それが観光地として一つに繋がっていないように感じる。観光客の方がどういう事に関心があるかどうか常にキャッチすることが大切であると思う。博物館では展示を中心に企画をしており、関心がある方が必ず来館すると思うので、継続的に企画や催事を計画していくことが大切だと考える。

(那須野委員)

東京や日本各地から来る観光客へ視点を変えていくべきだと思う。米沢や上杉家の歴史や文化について、知っている人は知っているが知名度が低い。多くの人々に知ってもらうために、周辺で催事等行い有名人等呼び観光客を呼び込むきっかけをつくると少しは人が来るのではないかと。

(布施委員)

先ほども意見が出たように、道の駅より先に上杉文化エリアを訪れてからではないと道の駅を訪れてからこちらに来るのは難しいと思う。現状、上杉文化エリアに家族連れの集客を見込もうとすると歴史好きや興味がある人しか訪れないと思うので、例えば道の駅に文化エリアで使える割引率の高い割引券を設置して呼び込む等いかかだろうか。文化エリアの歴史的魅力だけではなく、子ども連れでも誰でも楽しめるなどといった付加価値をつけて、文化という固いイメージを和らげるような工夫が必要であると思う。また、その一環で米沢出身の文化人の紹介として展示し、ポスターを貼るなどすると、広い範囲での集客が見込めると思う。また、エリアの中に気軽に入れる飲食店が集まった屋台村等があるとアピールできると思う。

(議長)

様々意見を伺ったが、大前提として上杉文化エリアが魅力的でないと駄目だと感じた。常にいい企画を考え良いイベントをし、情報発信をし続けることが大切であると感じた。参考にして頂ければと思う。

(事務局)

多くの貴重なご意見を頂戴し、感謝申し上げます。委員の皆さまには伝国の杜の事業への参観と事業への評価をお願いしている。評価活動は事業内容や運営の改善を図るために重要視している取り組みであるため、皆様には是非展示や催事をご覧頂きご意見を頂戴したい。

10 閉会 (鈴木)